

令和7年度 京都府立農芸高等学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン） 実施段階

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)		
<p>1 スクールミッション(社会的役割等) 京都府の農業に関する専門学科の基幹高校として、関係機関や大学と連携しながら実践的・総合的な探究を重点的に取り組むことにより専門性を高め、人間と自然との共生を図ることができるスペシャリストを育成する。</p> <p>2 スクール・ポリシー(三つの方針) (1) 育成を目指す資質能力に関する方針(このような力を育てます) ・質実剛健の風風を培い、何事にもあきらめず、粘り強く挑戦し続ける力を育てます。 ・生命の尊厳を尊び、農業の発展及び環境保全に貢献する意識と実行力を育てます。 ・本校で培った知識・技術を活かし、社会の発展に寄与する力を育てます。 ・夢と希望を持ち、自ら考えて行動し、他者と協働しながら主体的に課題に向かう力を育てます。</p> <p>(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針(このような教育活動を行います) ・府立大学の系属化に向けて、大学との高度な連携をはじめ、地域や関係機関とも連携することで質の高い専門分野の教育活動を行います。 ・社会人基礎力の向上と農業のスペシャリスト育成を目指し、学年の枠を超えた各コース縦割りを軸とする活動を行います。 ・体験的・実践的な学びを科学的根拠に基づいて考える教育活動を行い、その成果等を積極的に発信します。 ・専門学科としての特徴的な学びである体験的・実践的な学びを通して、学習意欲を高める教育活動を行います。</p> <p>(3) 入学者の受け入れに関する方針(このような生徒を待っています) ・知的好奇心や科学的探究心を持ち、意欲的に専門分野の学習に取り組みたいと考える生徒 ・自らの目標を設定し、主体的に学習に取り組むことができる生徒 ・自らの課題に向き合い、本校の環境を活用して成長し続けようとする生徒 ・常に周囲への敬意を忘れず、人や自然と良好な関係を築こうとする生徒</p>		<p>1 成果 (1) 基礎・基本の定着を中心に学力向上に取り組むとともに、分野別説明会や外部の進路相談会など計画的な進路指導により希望進路の実現に取り組んだ。 (2) 学年部、寮務部等による面談等を通じて、比較的落ち着いた学校生活と寮生活の維持に努めることができた。 (3) 各学科・コースの専門的な知識・技術を活かした地域での活動、農場HACCPとグローバルGAPの継続認証、農芸祭、農業クラブ学習成果発表会の実施、農業クラブ活動など農業専門高校として特色ある活動を積極的に進め、府農林水産部をはじめとする関係機関や南丹市・亀岡市との連携活動を推進することができた。 (4) 海外農業研修(台湾)を4年ぶりに実施することができ、充実した研修となった。 (5) インスタグラム、ホームページ等を通じて生徒の活躍している姿を発信するとともに、学校説明会や中学校訪問等でも積極的に広報等に取り組むことができた。 (6) 京都府立大学の系属高校となる準備を府立大学と府教委との三者で進め、それに合わせて校内の改編推進会議でも協議することができた。</p> <p>2 課題 (1) 地元地域や中学校との適切な連携や教育活動の成果と学校としての魅力を発信し、教育機関としての信頼をさらに高め、募集定員を充足する志願者を確保する。 (2) より一層の学習用端末を活用した授業展開と観点別評価による指導と評価の一体化を図る。 (3) 家庭との連携を中心に必要に応じてスクールカウンセラーや関係機関等とも連携し、学校として組織的に生徒をサポートする体制を強化する。 (4) 部活動、農業クラブ専門部活動への加入率を高めるとともに、生徒会・農業クラブ・寮生会において、生徒が自主的に活躍できる場を増やし、達成感を感じさせる。 (5) 府立大学との連携については、校内の改編推進会議の進捗状況を全教職員で共有できるように努め、令和8年度から計画している高大連携の取組を令和7年度から試行的に先行実施し、本格実施の前に検証して準備を進める。</p>	<p>1 学校経営主題 「挑戦と協創 ～未来を拓く、チーム農芸～」 2 学校経営の重点事項 (1) 学力向上 ① 全ての授業・実習において主体的・対話的で深い学びを実践し、基礎学力の定着と学力向上を目指す。 ② 授業改善のための生徒による授業アンケートを実施・検証を適切に行うとともに公開授業週間等を効果的に活用する。さらに、学習指導要領の趣旨を踏まえた観点別評価による評価・評定を適切に行う。 ③ 生徒一人ひとりの個に応じた学習指導が展開できるよう、より一層効果的に学習用端末を活用する。 (2) 農業に関する専門教育の充実 ① 各学科・コースの特色に応じ、ACCESSを軸に実践的で体験的な農業教育を展開する。 ② 農業クラブ活動における「プロジェクト研究活動」をはじめとする調査・研究を充実させ、各種発表会に積極的に参加するとともに、日本学校農業クラブ全国大会等の各種大会での入賞を目指し、適切な指導を継続して行う。 ③ 府立大学との連携を通して、高度で質の高い学びと体験的・実践的な学びによる実学との融合を図り、高校生と大学・大学院生との交流はもとより、教職員と大学教授等との交流も増やす。 (3) 希望進路の実現 ① 3年間を見通した進路ガイダンス、積極的な資格取得、インターンシップ等により、適正な職業観・勤労観とともに、真摯に社会貢献する意欲を計画的に育成する。 ② 生徒一人ひとりの個性に応じた進路実現に向け、家庭との連携を密にし、学年部と進路指導部が中心となり、必要に応じて関係分掌との連携も図りながら進路指導に取り組む。 ③ 府農林水産部、関係機関との連携による各種事業を積極的に活用し、京都府の農業や関連産業の振興・発展に寄与する将来の担い手育成を全学科・コースで取り組む。 (4) 組織的で継続的な生活指導と豊かな人間性の育成 ① 家庭との連携を中心に必要に応じてスクールカウンセラーや関係機関等とも連携し、学校として組織的に生徒をサポートする体制を強化し、充実した学校生活、寮生活を送らせる。 ② 部活動、農業クラブ専門部活動への加入率を高めるとともに、生徒会・農業クラブ・寮生会において、生徒が自主的に活躍できる場を増やし、達成感を感じさせる。 ③ 常に周囲への敬意を忘れず、人や自然と良好な関係を築こうとする態度を育成する。 (5) 人権教育・特別支援教育の推進と安心・安全の確保 ① 感染症対策に継続して取り組み、自他の人権と生命を尊重する実践力を育成し、良識を持って多様性を理解し、共生社会を生きる姿勢を醸成する。 ② 特別な支援を要する生徒の教育ニーズを把握し、関係機関と適切に連携することにより、組織的に合理的配慮を提供するなど、特別支援教育を推進する。 ③ 全ての教育活動において安全の確保を最優先とし、危機管理意識を持って、組織的に事故等の未然防止に努める。 (6) 地域から信頼される開かれた学校づくりの推進 ① 日頃の学習成果を発表する機会を積極的に設定し、生徒の活動する姿を広く発信することで本校の魅力を理解していただき、地域からの信頼を高める。 ② 報道機関等へ教育活動情報を積極的に発信するとともに、中学校との適切な連携により募集定員を充足する志願者の確保に努力する。 ③ 保護者アンケート等により教育ニーズを的確に把握し、その結果等を学校運営協議会で協議し、改善した結果等についても発信し、開かれた学校づくりを推進する。</p>		
<p>評価</p> <p>A 十分達成できている。(目標以上の成果が得られた)</p> <p>B ほぼ達成できている。(ほぼ目標どおりの成果が得られた。)</p> <p>C 達成できているとはいえない。(成果はあったが目標には達していない。)</p> <p>D ほとんど達成できていない。(ほとんど成果がなかった。)</p>					
分掌／教科名	評価領域(業務領域)	重点目標	具体的方策(実践項目)	評価	成果と課題
管理職	組織運営	分掌間、教科間の連携・協働の推進	本校の教育目標の実現に向け、教職員が互いに協力し、それぞれの価値観や個性を認め合いながら、関係する分掌・教科と連携・協働し、新たな取組に挑戦する「チーム農芸」を創り上げていく。	B	【成果】 ・京都府立大学の系属高校化に向け、大学や京都府教育委員会との協議を定期的に開催することができた。 ・大学や企業、地域と連携した教育活動を推進することで、体験的・実践的な農業教育を展開することができた。 ・生徒の授業アンケートや保護者学校評価アンケートの結果から、教育ニーズを的確に把握することができた。 ・地域との連携や学校公開を進めることが、学校の特色を広く知っていただく機会となった。 【課題】 ・志願者数は増加したが、今後も広報活動や学校公開などの生徒募集に努め、教育活動を積極的に発信することで、学校の魅力をさらに効果的に伝えていく必要がある。 ・府の農業をリードする人材育成に向け、府立大との連携をさらに発展させることが求められる。
		農業に関する専門教育の充実	各学科・コースの特色に応じ、ACCESSを軸に実践的で体験的な農業教育を展開する。また、令和8年4月からの府立大学系属高校化へ向け、大学との連携を通して、高度で質の高い学びと体験的・実践的な学びによる実学との融合を図り、生徒・教職員と学生・大学教授等との交流を図る。	B	
		地域から信頼される開かれた学校づくりの推進	生徒の活動する姿を広く発信することで本校の魅力を理解していただき、地域からの信頼を高める。教育活動の積極的な発信と保護者アンケート等による教育ニーズを的確に把握し、学校運営協議会での協議、中学校・関係団体との適切な連携等により、志願者確保に努力する。	B	
事務部	教育環境	効率的な予算執行	・農場部との連携をより深め、効果的な実験実習費の執行に努める。 ・高騰する光熱水費や飼料代の推移を的確に把握し、必要な予算執行について各分掌と連携する。	B	【成果】 ・厳しい予算状況の中、高騰する経費の把握に努め、必要な予算を確保することができた。 ・生徒の修就学について情報共有に努め、連携を深めることができた。 ・施設設備の老朽箇所について、担当課との協議を進めることができた。 【課題】 ・生徒世帯状況の変化について引き続き留意する。 ・施設設備面での担当課との協議を継続する。 ・農業教育の充実と系属化に必要な予算について検討を続ける。
		就学支援、奨学制度の周知と連携	・担任との連携に加え、奨学金など進路に係る状況についても連携を深める。 ・諸費の納入状況を把握し、各学科コースの取組とも関わり強化する。 ・生徒の世帯状況について、担任とも連携し情報更新に努める。	B	
		学校施設の維持管理	・老朽箇所について、担当課と連携し改修に努める。 ・可能な限り順次速やかに対応し、設備の長寿命化に努める。 ・懸案事項について担当課との協議を進める。	B	
教務部	学習指導	学力の向上を目指した取り組みの推進	・「授業開始時の五箇条」の徹底をはじめ、授業時間の規律確保に努めることで個々に充実した学習時間を過ごす環境を整える ・基礎学力の定着や、学習意欲向上を目指したアプローチを実施する ・学習集中期間を設定し、学習意欲向上を目指した雰囲気作りをする	B	【成果】 ・調査前学習集中期間を設定し、学校全体への学習への意識付けが行えた。 ・短期間の実施であったが朝読書を実施し、落ち着いた教育環境の提供や生徒の興味啓発に寄与できた。 ・定期的な図書館だよりの発行による情報発信を行うことができた。 ・校務システム等のネットワーク環境の整備を行い、スムーズな教育活動に寄与できた。 ・令和8年度入学生教育課程を編成することができた。 【課題】 ・使い方が刻々と変化する学習用端末の効果的な活用方法について継続的かつ柔軟に指導し続ける必要がある。 ・すべての教室に教育用Wi-Fiが導入できていないため、一部の授業運営に工夫が必要であった。次年度については事務部と協力し、スマートな学習環境を提供できるように努めたい。
		農芸高校の新しい学びに向けた取り組みの推進	・農芸高校の魅力を発信できる授業・学校行事を設定する ・「農芸高校の魅力化」に向けた授業・学校行事の在り方について、分掌・教科と連携して検討を進める ・系属高校化に向けた教育課程の在り方について検討を進める	B	
		教育活動を活性化させるための環境整備の推進	・観点別評価及びBYODの安定した運用と効果的な活用方法を推進するため、情報収集と共有を推進する ・情報機器の適切な整備・運用や校務システム等の効果的な活用を推進する ・スリムで効果的な学校行事を計画・調整する ・学校図書館の効果的な活用方法の検討と情報発信を推進する	B	
改編推進部	学校改編	高大連携の実施と、積極的活用の推進	これまでの京都府立大学との高大連携に加え、今年度から実施する1、2年生を対象にした高大連携が生徒たちの深い学びにつながるよう、調整を行なっていく。さらに京都府立大学との連携活動を一層推進していくために、校内の各分掌・学科・コースと京都府立大学の調整役としての業務を行う。	B	【成果】 ・1年生の京都府立大研修(校外研修)、2年生進学希望者の研究室体験、流木祭の出店といった形で、高大連携を実施することができた。 ・改編推進会議を活用し、関係分掌との連携を図り、教育課程の改編、制服の改訂、系属高校卒の推薦基準の決定の一助になることができた。 ・オープンスクールなどの各種広報行事、Instagramを主とした日頃の広報活動を行い、本校の魅力を発信することができた。 【課題】 ・学科、コースに関する高大連携活動の調整役としての業務を果たすことができなかった。 ・生徒の学力の伸長に向けた取り組みなど、まだまだ改編を進めていかなければいけない内容が残ってしまった。 ・広報活動の充実を図り、前期の受検者数の増加は2年連続で達成したが、中期の定員充足には至ることができなかった。
		改編推進会議の円滑な運営と加速化	改編推進会議を運営を取りまとめ、本校の改編の具体的施作を決定を加速化させていく。またその際に、たくさんの先生方の意見を取り入れられるような機会をつくっていく。	B	
	情報発信 生徒募集	教育活動の魅力化と活発な情報発信とミスマッチのない生徒募集	ホームページ・SNSの更新、オープンスクールや中学校訪問などで、本校の教育活動やその魅力を広く発信する。それにより本校で学びを進めたいと考える生徒を募集し、より学習活動が活気を持つものにする。	B	

生徒指導部	生徒指導	学年や各分掌を横断する生活指導と社会人基礎力を育む指導	・学校全体で生徒の成長を一貫して支援し、発達支援的生活指導と問題解決型の生徒指導を推進する。 ・基本的生活習慣の確立を目指し、社会人基礎力の醸成を図る。	B	B	【成果】 ・生徒の頭髪や着こなしに乱れはなく、落ち着いた学校生活を送っている。また、規則や時間を守る姿勢が定着しており、社会人としての基礎的な力が身に付きつつある。 ・問題行動については、学年団と連携し、発達支援の視点を踏まえながら、生徒一人ひとりの実態に応じた生活指導を行うことができた。 ・生徒一人ひとりが自らの役割をやり遂げ、体育祭や農芸祭といった大きな学校行事を、生徒全員の力で成功させることができた。 ・食材を活用した取り組みやスポーツを通じた活動により、近隣の高校との交流を深めることができた。 ・丹地域域の高校や南丹市議との意見交流を通じて、地域活性化や観光資源をテーマに学びを深めることができた。こうした活動により、地域とのつながりが強まり、生徒の地域理解と協働意識の向上につながった。 【課題】 ・問題行動が昨年度より3件増加した。今後も未然防止および再発防止に向けた指導を継続的に進めていく。 ・日々熱心に活動に取り組んでいる部活動も多く、部活動指導員を活用しながら運営の充実を図っている。しかしながら、専門的な技術指導ができる人材の確保や、生徒の部活動継続率の低下といった課題については、十分な解決に至らなかった。
		規範意識の醸成	・常に進路先の面接時を見据えた服装や頭髪意識の定着を目指す。 ・規範意識を醸成する支援や生活指導を推進する。 ・いじめ等の問題行動の未然防止に努める。	B		
		豊かな人間性の育成	・学習をはじめ、任せられたことを最後までやり遂げる力を育み、自己有用感を高める。 ・部活動や対外的な活動にも積極的に取り組む人間性を育み、多様な人となつながら力を育成する。	B		
進路指導部	進路指導	各学年の状況に合わせた段階的なキャリア教育を推進し、社会人基礎力を育成する。	日々の指導に加え、インターンシップ、外部との連携、「3年生の話を聴く」、外部講師の活用などを通して、マナーや職業観を身に付けさせる。またclassiを保護者・生徒への情報提供・各種連絡・学力向上におけるツールとして、引き続き有効活用していく。	B	B	【成果】 ・生徒・保護者に向けてClassiを活用した情報提供を行った結果、保護者の閲覧数が大幅に増加し、定着していることが確認できた。また企業受験に関わるような休日における進路指導にも、教員・生徒間の連絡ツールとして有効活用することができた。 ・系属高校化に伴う推薦基準選定や学習合宿・外部模試・英検対策講座・基礎学力補習など、他分掌とも連携しながら、全体的な学習環境の整備を行い、生徒の進路意識や学習習慣の定着に貢献することができた。 ・学年団と連携しながら、年次に合わせた進路HRを企画・運営し、進路意識の向上に繋げていった結果、今年度も3年生全員が無事進路を決定することができた。 【課題】 ・求人票管理ツール導入2年目となり、就職指導に関わる負担軽減と効率化に繋げることができたものの、今後生徒・保護者にどのように求人情報を提供・共有していくのか、ルールの在り方を議論していく必要がある。 ・今年度も、多くの教員による企業見学の協力があり、生徒の企業選定に大きな力を発揮した。増え続ける求人数と生徒の受験企業決定に関して、どのようにミスマッチを無くす指導ができるかが今後の課題である。 ・進学指導・就職指導を問わず、小論文や自己PR文、志望理由書、奨学金に関わる自己推薦文などの作成指導については、コースの教員や学年団・進路指導部教員に依るところが大きいが、業務の効率化の観点からも、今後はAIソフトなどのICT活用も見据えながら、いかに時流に合わせた進路指導ができるかが課題である。
		大学等への進学後を見据えて、学力の向上に向けた取組を推進する。	基礎学力補習(大学生ボランティアの活用)、進学セミナー、学習合宿への積極参加を促し、一般常識を始めとした基礎学力の充実を図る。また、四年制大学進学希望者(特に京都府立大学系属校生)については、模擬試験受験や実用英語技能検定を通じて実力の把握と対策を意識させる。	B		
		進路情報を分掌間で十分に共有し、学校全体で一体感のある進路指導を実現する。	生徒(保護者)の希望進路実現のため、学年部・進路指導部・学科・コース・教科等で得られた情報を、分掌間で滞りなく情報共有し、適切な役割分担を行うことで、ミスマッチの無い進路指導を実現し、進路満足度を高める。	B		
保健部	保健指導	自分の身体に関心を持ち、健康を意識した生徒の育成をはかる。	・生徒一人一人が自らの体と心の健康に対して正しい知識を身につける。 ・生徒が自分に必要なものを判断し、事前に準備するなど自己管理能力の向上を目指す。 ・3年間を通し計画的な保健学習を検討することで、取り組みの充実を図る。	B	B	【成果】 ・規律を保ちながらも生徒が入室しやすい保健室運営を行うことができた。 ・性教育講演会や喫煙防止教室などに加えて、熱中症対策講座などの保健学習を実施することができた。 ・たんば地域支援センターなどの外部機関や、スクールカウンセラー、学び生活アドバイザーと連携し、課題のある生徒に対応することができた。 ・限られた人員を工夫し、美化活動や日々の清掃に取り組むことができた。 【課題】 ・定例の特別支援会議に加えて、臨時の会議を3回開催することになった。欠席がかさむ生徒の情報をできるだけ定例会議で早めに共有できるようにしたい。 ・自ら主体的に環境や美化に対する意識を持てるよう生徒を啓発する必要がある。 ・次年度、さらなる掃除場所の精選と担当人員の工夫を進める。
		特別支援教育の充実をはかる。	・特別支援教育についての正しい理解と認識を深め、生徒に対する的確な理解と情報共有に努める。 ・特別支援教育会議を有効に活用し、学年・寮・他分掌との連携を密にする。 ・支援を要する生徒に合理的な配慮等が適切に施せるよう、スクールカウンセラーや地域支援センター、学び生活アドバイザーなどとの連携を図ると共に、学年担任の負担を少しでも減らせるようサポートを行う。	B		
		清潔で衛生的な学習環境を整えるため、環境整備に努める。	・安心安全な環境の維持のため校内の安全点検を定期的に実施する。 ・清掃活動の活性化や精選、保健委員の積極的活用など校内美化の更なる改善を進める。 ・大掃除や一斉美化作業の計画的実施や日々のゴミ分別の徹底など、校内美化に対する意識の向上を図る。	B		
農場部	農場管理・運営	実践的で体験的な農業教育の推進	・各担当と連携し、計画的・実践的で円滑な農場運営を行う。 ・京都の農業と環境を支える担い手の育成を目指す。 ・安全衛生教育の観点から、実験・実習時の事故防止を徹底する。	B	B	【成果】 ・販売価格や必要経費を見直し、安定した農場運営に向けた改善を行った。 ・農業クラブ全国大会で4名が優秀賞に入賞できたほか、全国的な大会で入賞することができた。 ・農芸祭や学習成果発表会を実施し、外部に向けた学習成果の発表を積極的にに行った。 ・トマト・メロンのGLOBAL G.A.P.や、採卵鶏・肉用牛の農場HACCPの認証を継続できた。 ・農芸感謝祭や野麦のデジタル化など、行事・取り組みの改善を行った。 【課題】 ・価格の高騰に対応するため実験実習費の確保に努めるとともに、老朽化している施設・設備を計画的に更新する。 ・プロジェクト発表や意見発表等において、上位入賞に向けた活動の活性化が必要。 ・タブレット端末の活用など、教職員の授業改善に向けた研究・研修が必要である。 ・農業機械等の安全で適切な管理・使用方法について指導者のスキルアップを目指すとともに、安全教育の充実を図る。 ・京都府立大学農学食科学部との連携内容をさらに充実させる必要がある。 ・農場内の情報共有方法について、整理をするとともに、業務の分担とスリム化を目指し、農場部内の行事・業務を整理する。
	農業クラブ活動	農業クラブ活動の活性化	各種発表会・競技会での入賞や、資格取得・各種コンテスト・地域連携事業などを通してクラブ員が活躍できる場を提供する。	B		
	担い手育成	関係機関と連携した担い手育成の推進	・京都府立大学との連携協定を具体化する取組を一層推進する。 ・府立高校特色化事業や京都府関係機関各種事業を活用し、将来の地域農業の担い手を育成する。	B		
寮務部	寮教育寮運営	寮生活と学習を密着させ、学習習慣を定着することによって学力向上を図り、進級・進路実現につなげる。また、これによって自己有用感の高揚ならびに自己実現に向けて努力する態度を育成する。	学習時間を活用し、学習習慣の定着を図るとともに、学習に対する主体性を育成する。	B	B	【成果】 ・基本的な生活習慣の定着や学習に対する姿勢を育成するべく、挨拶の励行、整理整頓の徹底など、日直・宿直をしていただく先生方と連携しながら細かく、根気強く指導することができた。 ・2寮生の学習時間にiPadを使用できるよう整えることができ、学習環境を改善できた。 ・寮生集会では寮生サミットの報告や3年生から話をしてもらうなど、寮生が主体となる機会をつくることができた。 【課題】 ・備品の破損が数件あり、集団で生活している場、公共の場であることの意識付けをより行う必要がある。 ・教育寮としての位置づけ、寮教育の目的や到達点を明確に示し、寮生が主体的にルールを遵守するという風紀、意欲をさらに醸成していく必要がある。 ・寮生会をさらに機能させ、教員主導の寮行事にならないようにする。寮生会という組織の存在感を高められるように、今後も力を入れて指導していかなければならない。 ・施設設備の老朽化について、引き続き寮生や寮務部の要望を整理し、管理職や事務部と密な連携を図っていきたい。
		厳しくも暖かく、きめ細やかな生活指導により、社会人としてふさわしい生活習慣の確立と規範意識・人権意識の醸成を図る。	自発的なあいさつと生活規則の遵守を定着させることで、コミュニケーション力を高めるとともに、規範意識・人権意識の確立を図り、社会人基礎力を育成する。また、寮生集会や寮行事、綱領の唱和を通じて寮生の結束と農芸高校への帰属意識を高める。	B		
		「協同の精神」の涵養を図る。	集団生活において、他者を思いやることのできる道徳的精神や人権尊重の意識や行動力、判断力を身に付けさせる。	B		
		令和8年度入学生からの希望入寮制について、入念な準備を進めていく。	改編推進会議のみでの協議だけでなく、宿直・日直業務に関わっていただいている先生方からの意見も吸い上げ、持続的な寮運営、寮教育を追求していく。	B		
第1学年部	指導方針	成功体験を積み重ね、課題解決能力を向上させる	・サポート体制の構築:生徒が目標を達成するためのサポート体制を整え、個別指導や面談などきめ細やかな指導をおこなう。各分掌やコースと密に連携をとり学校全体で指導する。 ・達成感の提供:細かく目標を設定し、達成するたびに各生徒に達成感を感じさせる。 ・課題解決能力の向上:「何がうまくいかなかったのか」「どうすれば改善できるのか」を考える習慣を身に付けさせ、自己成長を促す。	B	B	【成果】 ・1年の指導を通して「やればできる」という感覚が高まり、主体的に取り組む姿勢が見られるようになった。また、担任・教科による面談や個別指導を継続的に行ったことで、生徒の課題を早期に把握し、必要な支援につなげる体制が整ってきた。さらに、振り返り活動を通して「何が原因でうまくいかなかったのか」を考える習慣が根つき、改善に向けた行動を意識する生徒が増えてきた点も成果である。 ・学習習慣・生活習慣の確立を「成長の基盤」と位置づけ、小さなステップから取り組ませる指導を継続したことで、生徒が日々の行動を見直し、当たり前のことを継続できる姿勢が育ちつつある。また、学年内だけでなく学校全体で指導方針を共有し、一貫した指導を行ったことで、生徒の行動が安定し、生活リズムの改善や学習への向き合い方に良い変化が見られた。 【課題】 ・習慣形成の定着には個人差が大きく、生活面・学習面ともに「続ける力」が十分に育っていない生徒も多い。また、教員間の指導の一貫性は改善してきているものの、学級によって重点の置き方や声かけのスタイルに差があり、結果として生徒の習慣定着にバラつきが生じている。 ・「包み込まれている」という安心感が全ての生徒に均等に届いているかという点についても課題が残る。特に自己表現が苦手な生徒や相談につながりにくい生徒に対しては、より意図的な関わりや働きかけが必要である。
		習慣及び社会的環境の形成し、自己効力感を育成する	・小さなステップから始める:学習習慣・生活習慣が成長の基盤であることを示し「当たり前のことを当たり前」できるように指導する。 ・一貫性を保つ:学校全体での共有を徹底し、指導の一貫性を保つことで生徒の各習慣を形成させる。 ・自己効力感の形成:物理的な環境を変えられない以上、社会的な環境を変えて行くことが大切であると考える。学校に生徒一人ひとりの居場所を作るために、居心地の良い学校・クラス作りをおこない自己効力感を高める。	B		
		フィードバックを活用し自己理解の深化を図る	・定期的なフィードバックの実施:二者面談・三者面談だけでなく、個別での面談や保護者を交えての面談など定期的におこなえるよう尽力する。 ・包括的な評価:学年だけでなく、各分掌・コースと連携し様々な視点から評価をおこない、その後の指導に生かす。 ・包み込まれているという感覚:多くの時間を過ごす農芸高校だからこそできる関係作りをおこなう。	B		

第2学年部	指導方針	各分掌間の連携を密に行い、生徒指導案件の未然防止と基本的な生活習慣及び社会人基礎力、学習習慣を定着させ、全員で進級・卒業を目指す。	各コース・生徒指導部・寮務部などと生徒情報を共有し、生徒の指導における初動対応を迅速に行い、保護者とも協力して生徒の現状把握と問題行動の未然防止、進級に向けて成績の向上等の指導を行う。	B	B	【成果】 ・生徒指導部・寮務部・保健部などの関係分掌や保護者等と連携した指導・支援を行い、落ち着いた雰囲気で学校生活を送ることができた。 ・進路指導部と連携して、校内での進路セミナーや校外のガイダンスに多くの生徒が参加することができ、各個人の進路決定に向けて動けた。 ・大きなイベントである修学旅行を、担任団の思いを反映させた内容に構築することができ、生徒たちも集団行動や自主的な活動を通して学び、楽しみ、思い出に残る充実した研修旅行として無事に終えることができた。 ・各種学校行事や農業クラブ活動等に積極的に取り組む姿が見られた。 【課題】 ・全体的には落ち着いた集団ではあるが、小集団や個々では問題行動や発言がみられる。 ・進路決定に向けて動き始めている生徒も見られるが、なかなか進路が見えてきていない生徒もいるので、3年生に進級してからの進路決定の流れに乗り遅れないよう個別指導を充実させたい。
		生徒の希望する進路実現を目指して、生徒が主体的に行動する力を育成する。	中だるみの2年生期にならないように、資格取得や進路情報の収集、コースの活動を充実させるなど進路実現につながる指導を行う。	B		
		学校行事の成功に向けた集団力(チームワーク)の向上を目指す。	学年最大の行事である修学旅行の成功に向けて、クラスや学年の活動を多く実施し、集団意識の向上に努める。	B		
第3学年部	指導方針	全員の希望進路実現を目指す。	・担任団だけでなく、他分掌や保護者との協働によって指導に統一感を持たせ、生徒一人一人に合わせたタイミングで効果的にアドバイスをを行い、全員の希望進路実現を目指す。 ・進路に関するHRや毎日のSHRを利用し、キャリアプランの醸成に努める。 ・進路HRだけでなく、個人の持つ可能性を広げられるよう、他分掌や保護者と協力して生徒自身の希望進路へ挑戦できる環境を整える。	B	B	【成果】 ・保護者・進路指導部など関係分掌と連携し、生徒一人ひとりに合わせた進路支援を行い、生徒の希望進路を実現できた。 ・課題のある生徒や卒業が危ぶまれる生徒にも早期に対応し、個別指導を徹底した。 ・生徒の心理面を日頃から丁寧に見取り、適切な助言を行ったことで、落ち着いた姿のある最上級生としての姿を育てることができた。 ・学年全体で統一した身だしなみ指導を実施し、進路意識の醸成にもつながった。 ・各種行事や競技会で積極的に活躍し、最上級生としてリーダーシップと人間的成長が見られた。 【課題】 ・進路決定後の学習・生活へのモチベーションを保たせるための働きかけが十分とは言えず、一部の生徒で学年末にかけて登校日数が減る傾向があり、最後まで意欲を維持させる支援が課題として残った。 ・一般受験まで進路決定が長引く生徒もいたことから、1年次からの継続した進路意識の育成(一般受験だけでなく受験方法も視野に入れることなど)をさらに強化する必要がある。
		各分掌間連携を密に行い、基本的な生活習慣及び社会人基礎力の定着を図る。	・社会人になることを意識した生活・進路指導を定着させるために、「できて当たり前」の姿勢でHR・授業・寮・コース・課外活動で統一感のある指導を行う。 ・日々の挨拶、授業規律、時間厳守の徹底、好感の持てる服装・態度など、各教科・分掌との連携により定着を目指す。 ・課題生徒に係る各諸機関との連携による状況把握に努め、生徒を見守り励ましながらつまづきを解消するべく、保護者と生徒が自己肯定感を高めることのできる指導を模索する。	B		
		生徒指導案件の未然防止と、質の高い学習空間の提供を図る。	・生徒が安心して授業を受けることができ、学習に対する充実感・達成感を味わう環境整備を行うために、計画的・継続的な生徒指導を積み重ねる。また場面場面で人間形成に資する訓話を行う。 ・未だに生徒指導案件を抑制するために、SHR等で担任・副担任による訓話を行い、規範意識の高揚を図る。また他人の「学ぶ権利」を侵害することは重大な人権侵害に当たることを認識させる。 ・若年層に特有のSNSトラブルによる生徒指導案件を減らし、良好な人間関係を築かせるために、人権学習や学年集会の場を最大限活用し啓発を行う。	B		
		学校行事の成功に向けた集団力(チームワーク)の向上を目指す。	・学校全体や学校行事の最高学年として、どの行事も能動的に参加しけん引していけるよう、集団力を意識した学年づくりを目指す。学年集会や学年LHRなどを活用し、集団力を向上させる。	B		

学校関係者 評価委員会 による評価	本年度実施した学校運営協議会において、学校運営全般、生徒の学習・生活状況、進路指導及び今後の課題等について協議を行った。	2 京都府立大学系属校化および進路指導について ・令和8年度から開始される府立大学系属校化に関し、系属校枠(5名)の校内選考基準を早期に策定し、明示する必要がある。 ・現在の府立大学進学希望者数は枠を満たしておらず、進学意識の醸成と受験希望者の確保が課題である。 ・英検対策講座や放課後補習、理科(特に物理)を中心とした進学補習等を通じ、大学進学に向けた学力向上支援を継続・強化していく。	4 学校運営・組織体制について ・学校経営計画の取組状況について、教職員間の情報共有が十分でない面があり、改善が必要である。 ・教職員が共通理解のもと、「チーム農芸」として一体的に教育活動を推進していくことが重要である。 ・生徒募集については、オープンスクールや外部説明会等を通じ、学校の魅力発信を一層強化していく。
	1 生徒の学習状況・学校生活について ・生徒は授業に真摯に取り組む、全体として学習意欲が高い姿が見られる。 ・予算面で厳しい状況がある中でも、生徒が安心して学び、生活できる環境づくりを継続していく必要がある。 ・体育祭等の学校行事における危機管理体制について、管理職配置の工夫など、より一層の安全対策が必要との指摘があった。 ・夏季の高温化を踏まえ、実習を含めた学校全体での熱中症対策の徹底が求められた。	3 学校評価・情報発信について ・生徒の学校満足度は高く、「成長できた」との肯定的な意見が多く見られた。 ・一方で、いじめ防止や人権教育の取組について、保護者への周知が十分でないとの指摘があった。 ・今後は、学校ホームページ等を活用し、学校の取組内容を積極的に発信していく。	5 その他 ・生徒会・農業クラブ役員との座談会を実施し、生徒の進路意識や学校生活に関する意見を聴取できた。 ・寮運営や学校行事の案内方法等についても、今後改善を検討していく。

次年度に 向けた改善 の方向性	<p>【管理職】</p> <ul style="list-style-type: none"> 系属校化の府立大学との連携を効果的に発展させる。 広報などの生徒募集活動をさらに充実させ、志願者数の確保に努める。 <p>【事務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係分掌や学年との連携強化による保護者連絡に努める。 施設設備面での担当課との協議、また、農業教育の充実と系属化に必要な予算について検討を続ける。 <p>【教務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和8年度入学生教育課程の運用を丁寧に進めていきたい。 校内情報管理システムや学習用端末のハード面及びソフト面の整備を進め、安心して活用できるICT環境の確保に継続して取り組む。 <p>【改編推進部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 改編推進会議やワーキンググループの打ち合わせの活性化を図ることができよう形にしていかなければならない。 特に課題研究での高大連携を実施できるよう調整をしていかなければならない。 本校の魅力がより強く伝わるように広報をブラッシュアップしていき、公立高校の新入試制度でも本校の学習を前向きに頑張っていくことができる受検者を増やす。 	<p>【生徒指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒間の情報をキャッチアップして、速やかな生徒対応の継続 共通認識内容の精査、指導体制、チーム農芸 部活動体制の整備(顧問、時間、通学(費用含む)等) 部活動指導者支援事業の活用を継続する <p>【進路指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 系属校化を次年度に控え、生徒の学力伸長にとって何が有効であるか、他分掌とも連携しながら模索していく必要性を感じる。 引き続き、生徒・保護者・学年団・コースと一体となった進路指導を目指していく。 <p>【保健部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健部を窓口とした外部との連携の効果を、担任の先生を始め、他分掌や部活顧問の先生方にも知っていただき、有効活用してもらえるような情報発信を心掛ける。 基礎学力補充との連携を継続し、参加生徒への効果のほどについて確認を進めていく。 <p>【農場部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験実習費の配分の見直しと、施設・設備の更新が必要である。併せて農業機械等の安全で適切な管理・使用方法について研修が必要である。 プロジェクト発表・意見発表においては、全国大会での入賞を見据えた学習を展開し、さらに農業クラブ活動を活性化する。 府立大学と連携した教育活動に関する予算を確保する。 教員相互のコミュニケーションを充実させ、TEAMで教育活動を進めていく。 	<p>【寮務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 寮行事、学校行事のバランスを考え、寮生及び教職員の負荷軽減を調整。 寮生が快適に生活できる環境を整える必要を感じるため、施設設備の改修を進めたい。 系属化も踏まえ、寮教育・寮運営の在り方や通学環境についてさらなる協議・検討が必要。 寮長をはじめとする各委員の役割を明確化し、具体的な役割を責任を持って主体的に実践できるよう指導したい。(例)手洗い・うがいの励行→保健委員からの呼びかけや啓発ポスターの作成等。 近畿・中国・四国の寮生サミットの開催に向けて準備を進めていく。 <p>[1年]</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別指導につながる事象を未然に防ぐため、担任・分掌間での情報共有をさらに密にし、生徒の変化に早期に気づける体制を整える。 LHRの時間を活用し、進路に関する学習を充実させる。特に「自己理解」「職業理解」「学習習慣の確立」を重点として位置づける。 保護者との連携を継続しつつ、学年としての取り組みをより分かりやすく発信し、家庭と学校が協力して生徒を支えられる環境づくりを進める。 <p>[2年]</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年生に進級してからの進路決定の流れに乗り遅れないよう個別指導を充実させたい。 <p>[3年]</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路決定後の学校生活への意欲向上の方策を検討 分掌内の仕事分担の工夫が必要
-----------------------	--	---	---